

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんにほんふいるはーもにーこうきょうがくだん 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://japanphil.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 平井 俊邦		
制作団体所在地	〒 166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1	最寄り駅(バス停)	丸の内線 新高円寺駅
電話番号	03-5378-6311		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじんにほんふいるはーもにーこうきょうがくだん 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団	団体ウェブサイトURL	制作団体に同じ
代表者職・氏名	制作団体に同じ		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
制作団体 設立年月	1956年 6月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:平井俊邦 副理事長:五味康昌 専務理事:福井英次 常務理事:後藤朋俊、中根幹太	理事会 13名 評議員会 32名 楽団員 85名 事務局員 36名 合計:166名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	荻島 里帆
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	浅見 浩司
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	bunkacho@japanphil.or.jp		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1956年6月22日創立。楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者に就任。幅ひろいレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。1962年には世界初の「シベリウス交響曲全集(渡邊暁雄指揮)」をステレオ録音。法人作曲家への委嘱制度として定評のある「日本フィル・シリーズ」は現在まで42作品が世界初演され、再演シリーズも継続。演奏の質と企画の両面から聴衆の広い支持を受けている。2008年ロシアの巨匠アレクサンデル・ラザレフの首席指揮者就任以降は演奏の質に益々磨きをかけ、その後はフィンランド出身のピエタリ・インキネン、そして現在はシンガポール出身のカーチュン・ウオンが首席指揮者をつとめ、充実した演奏活動を行なっている。他に桂冠名誉指揮者として小林研一郎、フレンド・オブ・JPOとして広上淳一が指揮者陣の一翼をなしている。6回のヨーロッパ公演を始め、北米、オランダ、ハワイ、香港、韓国等計10公演を行うなど音楽を通じての国際交流にも大きな役割を果たす。2019年4月に行ったヨーロッパ公演では、フィンランド・ドイツ・オーストリア・イギリス各国で絶賛を浴びた。聴衆育成の分野では1975年より始められたファミリーコンサートをはじめ、子どものための各種プログラム等幅ひろい年齢層を対象とした教育プログラムの分野に於いても極めて先駆的、積極的な活動を続ける。さらに地域における音楽振興にも力を注ぎ、1994年には東京都杉並区と友好提携を結び、フランチャイズ・ホール杉並公会堂を中心に市民のためのさまざまな交流プログラムを実施し、九州公演では2024年で50回目を迎える等、全国各地での広範な演奏活動を展開している。「音楽を通して文化の発信、感動の共有」を使命にオーケストラ・コンサート、エデュケーション・プログラム、地域活動を活動の三本柱に掲げる。2011年4月「被災地に音楽を」の活動を開始。岩手、宮城、福島沿岸部を中心に仮設住宅や学校を訪問し、地域の方との交流を続け、2019年には「東北の夢プロジェクト」として地元の小中高校生と共演を果たす。これまで338回を数え現在も継続中。これらの活動は高い評価を受け、第16回後藤新平賞を受賞。芸術性と社会性を兼ね備え、社会のニーズに応えるトップレベルのオーケストラとして期待される。</p>																																						
<p>学校等における公演実績</p>	<p>●過去5年分の公演実績</p> <table border="1" data-bbox="408 707 1321 943"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度※1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オーケストラ公演</td> <td>9回</td> <td>7回</td> <td>0回</td> <td>7回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>室内楽公演※2</td> <td>25回</td> <td>25回</td> <td>29回</td> <td>24回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>被災地※3</td> <td>33回</td> <td>3回</td> <td>0回</td> <td>6回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ</td> <td>29回</td> <td>4回</td> <td>15回</td> <td>9回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>クリニック</td> <td>7回</td> <td>5回</td> <td>12回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 2023年9月時点 ※2 主な編成＝弦楽四重奏・木管五重奏・金管五重奏／杉並区・さいたま市・その他の小中学校 ※3 岩手県・宮城県・福島県の小中学校</p>			種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※1	オーケストラ公演	9回	7回	0回	7回	3回	室内楽公演※2	25回	25回	29回	24回	12回	被災地※3	33回	3回	0回	6回	2回	ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回	クリニック	7回	5回	12回	8回	2回
種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※1																																		
オーケストラ公演	9回	7回	0回	7回	3回																																		
室内楽公演※2	25回	25回	29回	24回	12回																																		
被災地※3	33回	3回	0回	6回	2回																																		
ワークショップ	29回	4回	15回	9回	4回																																		
クリニック	7回	5回	12回	8回	2回																																		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>2007年12月 山梨県立かえで支援学校(オケ公演) 2008年1月 船橋市立船橋支援学校(オケ公演) 2013年5月 さいたま市立さくら草特別支援学校(室内楽公演) 2013年11月 栃木県栃木特別支援学校(オケ公演) 2016年10月 東京都立青峰学園(オケ公演) 2017年12月 東京都立城東特別支援学校(オケ公演) 2018年11月 広島県立呉特別支援学校(オケ公演) 2021年11月 白鷺特別支援学校(室内楽公演) 2021年12月 水元小小学園(室内楽公演) 2022年9月 宮城県立船岡支援学校(室内楽公演) 2022年9月 宮城県立角田支援学校(室内楽公演)</p>																																						
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>																																					
<p>※公開資料有の場合URL</p>																																							
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>																																						
	<p>PW:</p>																																						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	「オーケストラを知って、聴いて、一緒に奏しよう！」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【小学校】 ①ビゼー:オペラ《カルメン》より「闘牛士の行進」 ②楽器紹介 木管→金管→打楽器→ハーブ→弦楽器 ③モーツァルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章 ④プッチーニ:オペラ《ジャンニ・スキッキ》より「私のお父さん」(*) ⑤岡野貞一:もみじ(*) ⑥久石譲:さんぽ または 杉本竜一:BELIEVE(*) ※会場合唱 ⑦ドリーブ:バレエ音楽《 Coppélia 》よりワルツ ⑧共演・体験コーナー(AまたはBのうちどちらかを選択) A:リコーダー共演/きらきら星(*) (低学年:歌唱/高学年:リコーダー) B:指揮者体験/ブラームス:ハンガリー舞曲第5番 ⑨ベートーヴェン:交響曲第5番《運命》より第1楽章 ⑩校歌 Enc. J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲 (*)・・・ソプラノ歌手出演曲	【中学校】 ①チャイコフスキー:バレエ音楽《くるみ割り人形》より「花のワルツ」 ②J.シュトラウス II 世:ボルカ《雷鳴と電光》 ③楽器紹介 木管→金管→打楽器→ハーブ→弦楽器 ④エルガー:愛の挨拶(**) ⑤サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン(***) ⑥共演・体験コーナー(AまたはBのうちどちらかを選択) A:リコーダー共演/グリーン・スリーヴス(新アレンジ) ヴォーン=ウィリアムズ:グリーン・スリーヴス幻想曲 B:指揮者体験/ブラームス:ハンガリー舞曲第5番 ⑦チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》より第3楽章 ⑧校歌 Enc. J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲 (***)・・・ヴァイオリニスト出演曲	公演時間 70～80 分	
著作権、 上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	久石譲:さんぽ
	該当事項がある場合	権利者名 JASRAC	許諾確認状況	採択後手続き予定
演目概要	別添「演目概要」参照			
演目選択理由	<p>小学校の部では主にメロディに焦点をあてた選曲を行った。テレビやCM等で触れることのできる多くの作品をラインナップすることで、生演奏の素晴らしさを身近に感じてほしい。またソプラノ歌手の歌を通じて、子どもたち自身も音楽を歌い奏で、オーケストラと共演することで、「音楽に自ら参加する」面白さを感じられる機会を設ける。中学校の部ではリズムに注目し、3拍子の「花のワルツ」と2拍子のボルカ(雷鳴と電光)の対比や、ゆったりと穏やかな「グリーン・スリーヴス」と終始躍動的な行進曲形式の「悲愴」の第3楽章といった組み合わせを味わえる構成となっている。また今回からは新たにヴァイオリンのソリストをむかえ、器楽音楽の面白さを中学生に提供したい。またヴァイオリンのソリストには若手を起用し、彼らの活躍の場も提供することで、聴き手/演奏家双方が育つ環境づくりに努める。</p>			
児童・生徒の 共演、参加又は 体験の形態	<p>【会場合唱・リコーダー共演コーナー】 楽器や自身の体を使って奏でた子どもたちの演奏とオーケストラが共演する。子どもたちにとって特別な演奏体験を提供すると共に、音楽に主体的に参加し周囲の人と気持ちを合わせることを学んでもらう。事前ワークショップでは本公演での共演に向けた練習も行う。</p> <p>【指揮者体験コーナー】 代表生徒が実際に指揮台に立ってオーケストラを指揮する。鑑賞している生徒たちは、指揮者が変わるとどのように音楽が変化するかを生で体験することができる。また代表生徒のみならず全体に向けて指揮の仕方をレクチャーすることで、参加者全員が指揮について学ぶことができるよう工夫する。</p> <p>なお、小中学校共にリコーダー共演と指揮者体験のどちらにするのかを学校側が選択できるようにすることで、各校のニーズに寄り添ったオーケストラとのコラボレーションを体験できるよう工夫している。</p>			
出演者	<p>指揮:阿部未来/碓山隆一郎 ソリスト:ソプラノ(*):今井実希+1名調整中(小学校)/ヴァイオリン(**):外部ソリスト調整中(中学校) 管弦楽:日本フィルハーモニー交響楽団 2管12型 ※編成は原則。会場条件等により変更する可能性があります。 ※共演者については、エデュケーション・プログラムに豊富な実績をもつ日本フィルが、演目内容によって適した人材をコーディネートいたします。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 65 名 スタッフ: 12 名 合計: 77 名	運搬	積載量: 4 t 車長: 9 m 台数: 2 台	

本公演 会場設営の 所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		2	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時	13時30分	無	14時50分	17時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	0日	0日	0日	6日	
	11月	12月	1月	計	15日	
	6日	3日	0日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	500名程度(指揮者体験:2～3名)
		鑑賞人数目安	500名程度(体育館の規模によって変動)

公演に係る
ビジュアルイメージ
(舞台の規模や
演出がわかる写真)

※採択決定後、
図面等の提出をお
願いします。



<図1>

体育館のフロアにオーケストラを組んだ状態。
※弦楽器12型、管楽器2管編成
基本は体育館舞台を背にした状態で組む。
後方管楽器の段は、体育館舞台の間口のサイズにより、
もう一段加える場合もある。
管楽器の乗る舞台を平台で組み、よりコンサートホール
に近い演奏環境をつくることで、演奏者が最高の状態で
パフォーマンスを発揮できることに加え、音楽全体のバ
ランスも向上し、よりクオリティの高い演奏をお届けでき
よう努めている。
生徒の鑑賞態勢は学校に一任。



<図2>

演奏者が使用する舞台上の階段(影段)。
正確な舞台づくりにより演奏者の安全を確保することで、
微細な不安も取り除き演奏に集中できる環境を整えて
いる。またこのような段組みを設置することにより、体育
館といえどもコンサートホールに近い体裁を整え、理想
のオーケストラ音響実現のための努力を行っている。



<図3>

ソリストによる演奏の様子。



<図4>

指揮者体験の様子。

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	500名程度 (対象人数、学年については学校の希望により調整可)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>【小学校】 *ソプラノ(可能な限り本公演のソリスト)+器楽2名 ①器楽によるクラシック作品 楽器紹介 ②岡野貞一: 朧月夜 *音楽の先生(もしくは生徒)のピアノとソプラノとのデュオ または、ソプラノ+器楽編成の歌曲。 ③本公演関連コーナー A(リコーダー共演) 選択校/本公演での共演に向けた特別レッスン「きらきら星」 (低学年:歌唱/高学年:リコーダー) B(指揮者体験) 選択校/プロの声の出し方講座「校歌」 ④ソプラノ+器楽による作品</p> <p>【中学校】 *ヴァイオリン(可能な限り本公演のソリスト)+器楽2名 ①ヴァイオリン(ソリスト)+器楽によるクラシック作品 楽器紹介 ②無伴奏ヴァイオリンによる超絶技巧系小品(ソリスト) ③無伴奏器楽による小品 ④本公演関連コーナー A(リコーダー共演) 選択校/本公演での共演に向けた特別レッスン「グリーン・スリーブス」 B(指揮者体験) 選択校/リズムに焦点を当てた参加型ワークショップ ⑤ヴァイオリン(ソリスト)+器楽による作品</p> <p>公演時間:約45～50分</p>		
ワークショップのねらい	<p>ワークショップと本公演に強い関連性を持たせることにより、本公演での学びをより深めることを目指す。新たな要素として、今回からは本公演のソリスト(小学校:ソプラノ歌手/中学校:ヴァイオリニスト)を招くことで、子どもたちに本公演との関連性を特に印象付けたい。</p> <p>もう一つの要素として、本公演における体験・共演コーナーに接続する内容を設ける。リコーダー共演選択校では、本公演に向けた特別レッスンとして、日頃演奏家がどのようなことを考えて、感じて、音楽を奏でているのかを彼ら自身の言葉で子どもたちに伝えたい。ワークショップを経て、本公演ではフルオーケストラと共演することで、音楽を合わせることで、会場が一体となる瞬間を体感してほしい。指揮者体験選択校では、小学校はソプラノ歌手による「発声」に焦点を当てたレッスン要素を含む体験型ワークショップ、中学校は「リズム」に焦点を当てた体験型ワークショップを行う。</p> <p>(特に共演選択校では)ワークショップや本公演までの期間を用いて音楽の授業でも練習を重ねて頂きたい。本公演に向けた練習やワークショップで紹介した様々なメロディーやリズム、楽器たちを反芻することで、オーケストラとのコラボレーションが子どもたちの特別な音楽体験となると考えている。その他にも、オーケストラとは一味違う室内アンサンブルの魅力もお届けしたい。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>ワークショップも本公演と同様に、基本的には体育館舞台を背にした状態で演奏場所を設置する。会場条件によって柔軟に対応する。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 日本フィルは、国内オーケストラの中でも芸術性のみならず社会性を重視しており、楽団の活動の柱として「オーケストラ・コンサート」と並列して「エデュケーション・プログラム(教育)」と「リージョナル・アクティビティ(地域活動)」を掲げている。「文化庁巡回公演」は、我々の活動方針に完全に合致しており、非常に重要な公演であると考えている。未来の聴衆を育てるまたとない機会を最大限に活用するべく、楽団の魅力や特徴と子どもたちや学校のニーズとを深く考慮し、試行錯誤を続けている。ほとんどの場合演奏会場は各学校の体育館であり、また昨今の気象状況も加わって演奏環境を整えるには様々な努力、工夫を要するが、子どもたちが楽しめ、長く記憶に残る公演づくりに努める。オーケストラによる音楽鑑賞教室を一校でも多く、一人でも多くの子どもたちに届けたいと考えるが、その一方で、上からの「鑑賞」の押し付けによってクラシック音楽への嫌悪感を抱いてしまう子どもたちもいるとの声を聞く。日本フィルにおける本事業ではこういった声が上がらぬよう、子どもたちが生涯にわたって音楽芸術を愛せるような機会を細心の準備によってつくっていききたい。日本フィルは、2011年3月の東日本大震災後、「被災地へ音楽を」という活動を継続的にを行い、被災地域で330回以上の演奏会・ワークショップ・地元学生への楽器クリニックや共演などを実施。多くの楽団員が参加、自ら積極的に関わりを持ち続け、楽団の業務を超えて人との繋がりを大切にしてきた。その活動が評価され、2022年には、団体としては初めてとなる「後藤新平賞」を頂く榮譽に預かるなど、日本フィルの社会活動は広く認知されつつある。このように人に寄り添い、「エデュケーション・プログラム」を最重要な活動と位置付ける日本フィルは、本事業を継続的に実施することによる経験の蓄積が、音楽家を成長させ、更に子どもの心に残る体験を提供することに繋がっていると確信しており、今後も本事業を未来を担う子どもたちのための大切な取り組みとして続けていきたい。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 オーケストラの企画制作部とステージマネージャーがチームとなり、各学校との連絡を綿密に行う。それぞれ異なる学校からのニーズを汲み取り、可能な限りワークショップならびに本公演にそれぞれの要望を反映させるよう努める。なお今回の企画においては、これまで以上に生徒が演奏に参加する度合いが増しているため、学校側には会場準備だけでなく音楽的な準備も求められることから、各校の状況に応じて、リコーダー共演または指揮者体験を選択できるよう工夫した。また実務的な部分では、事前の下見を徹底し不意の事故や当日のトラブルを防ぐべく全力を尽くしたい。特にオーケストラの場合、楽器の搬入搬出に安全上の支障がないかを懇切丁寧にリサーチした上で、実施可否を判断する必要がある。学校はコンサートホールとは異なり必ずしも演奏会運営に適した環境ではなく、体育館で公演を行う場合は特に、当日の天候や気温においても最大限の配慮が必要である。昨今は厳しい暑さや台風・大雪の影響も大きく、生徒の体調管理はもちろんのこと、演奏家にとってもプロとしてのクオリティを保てるよう、環境づくりにも尽力する。併せて自然災害による交通機関への影響も考慮する必要があり、楽器輸送業者や旅行代理店、現地との連携をより密に行っていく。楽員ならびにスタッフに対しては、移動行程や地図等を通じて丁寧な案内を行うと共に、公演終了後の精算作業のスムーズ化のため規定フォーマットに基づいた領収証の提出の徹底を引き続き呼びかけていく。</p>
--	--

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団】
演目概要	<p>ビゼー:オペラ《カルメン》より「闘牛士の行進」 オペラ《カルメン》は、スペインのセビリヤを舞台とした異国情緒の豊かな傑作としてビゼーの全作品中最も人気が高い。開幕を飾る序曲にあたる「闘牛士の行進」は、有名かつ情熱的なサウンドで聴き手を魅了する。</p>	
	<p>モーツァルト:《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章 天才モーツァルトが残した数々の名作の中でも、最も有名と思われる本作品。シンプルな構造でありながら、心躍らせるメロディと典雅な雰囲気時代や世代を超えて愛されている。</p>	
	<p>プッチーニ:オペラ《ジャンニ・スキッキ》より「私のお父さん」 イタリアが産んだプッチーニが遺したオペラの一つ。アリア「私のお父さん」は、主人公の娘のラウレッタが父親に向かって恋人リヌッチオとの結婚を許してもらおうと切なく歌う美しい音楽である。</p>	
	<p>岡野貞一:もみじ 「もみじ」は1911年に発表された高野辰之作詞、岡野貞一作曲の唱歌である。作詞者高野辰之によると、信越本線熊ノ平駅から紅葉を眺め、その美しさに魅了されてこの詞を作ったとのこと。</p>	
	<p>久石譲:さんぽ 1988年に発表されたスタジオジブリの映画「となりのトトロ」の主題歌。以来、子どもたちに愛され続けている名曲で、作詞は絵本「ぐりとぐら」で有名な中川李枝子が担当した。</p>	
	<p>杉本竜一:BELIEVE NHK番組「生きもの地球紀行」の3代目エンディングテーマとして1998年に発表された作品。現在では、学校の合唱の定番曲として親しまれている。</p>	
	<p>ドリーブ:バレエ音楽《コッペリア》より「ワルツ」 フランスの作曲家ドリーブが書いたバレエ《コッペリア》は現在でも上演される名作。この「ワルツ」は第1幕で主人公のスワニルダが楽しく舞う音楽で、そのユーモラスでもあるメロディは古くから愛されている。</p>	
	<p>ベートーヴェン:交響曲第5番《運命》より第1楽章 クラシック音楽の革命児ベートーヴェンが遺したこの交響曲は、全4楽章において有機的に統一する要素としてその可能性の隅々までが使い尽くされ、交響曲全体の性格を決定づけている。クラシック音楽の根幹をなす「交響曲」の在り方を知る上で外すことのできない傑作である。</p>	
	<p>チャイコフスキー:バレエ音楽《くるみ割り人形》より「花のワルツ」 《白鳥の湖》、《眠れる森の美女》と並ぶチャイコフスキーの3大バレエの一つ。物語はとある家のクリスマスパーティーの夜を舞台にし、この家の2人の子どもフリッツとクララを中心に描かれるファンタジー。今回演奏する「花のワルツ」は妖精たちの華麗なダンスと共に演奏される、優美で華麗な音楽である。</p>	
	<p>J.シュトラウスⅡ世:ポルカ《雷鳴と電光》 「ワルツ王」J.シュトラウスⅡ世が1868年に書いたテンポが極めて速いポルカである。遠雷を思わせる大太鼓のトレモロや、中間部では稲妻と雷鳴が派手に鳴り響くなど、聴き手の想像力を刺激してやまない。</p>	
<p>エルガー:愛の挨拶 エルガーは19世紀後半から20世紀にかけて活躍したイギリス作曲家。この「愛の挨拶」は、エルガーが結婚生活に入った1889年にまずピアノ曲として完成、その後管弦楽に編曲された。生涯仲睦まじかったエルガー夫妻の面影を伝える好ましい小品といえるだろう。</p>		
<p>サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン サラサーテは19世紀後半のヴィルトゥオーゾ・ヴァイオリニストとして知られている。彼自身も演奏会のために多くの作品を作曲し、その中で最も大きな規模を持つ作品の一つがこの「ツィゴイネルワイゼン」である。劇的な開始部、抒情的な中間部を経て、激しいリズムと難易度の高い技巧がちりばめられた終結部へと至る。</p>		
<p>ヴォーン＝ウィリアムズ:グリーン・スリーヴス幻想曲 イギリスの作曲家ヴォーン＝ウィリアムズの作品の中でも最も有名なこの作品。この旋律自体は彼のオリジナルではなく、イングランドの古い歌『グリーン・スリーヴス』に基づく。『グリーン・スリーヴス』はエリザベス朝時代から知られており、ヴォーン＝ウィリアムズは自身のオペラ《恋するサー・ジョン》の中でこの旋律を用いた。</p>		
<p>チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》より第3楽章 この作品はチャイコフスキーの死の年・1893年に書かれ、実質上彼の「遺書」ともいべき作品である。全編にわたって哀愁と陰鬱が織りなす中、第3楽章だけは異様なまでに高いテンションで突き進むメロディックな旋律を伴ったマーチである。ただし手放しで明るいわけではなく、豪放磊落なオーケストレーションと共に、奥深さも感じさせるのがチャイコフスキーならではの音楽である。</p>		
<p>ブラームス:ハンガリー舞曲第5番（小・中共通曲） 重厚な音楽のブラームスの作品の中で、全4集21曲からなる「ハンガリー舞曲集」は広く人気を集めているものの一つである。ブラームスが20歳の演奏旅行中に知ったハンガリー民謡の音楽が色濃く反映されている。</p>		